

Prognostic factors for survival of herpes simplex virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis

園田, 素史

<https://hdl.handle.net/2324/4475023>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名：園田 素史

論 文 名：Prognostic factors for survival of herpes simplex virus-associated
hemophagocytic lymphohistiocytosis
(単純ヘルペスウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症の生存予後因子)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的

単純ヘルペスウイルス (HSV) に播種感染した新生児では、HSV 関連血球貪食性リンパ組織球症 (HSV-HLH) を発症する。新生児 HSV-HLH の急速な進行を制御する治療法や予後因子については未だ十分明らかではない。

方法

異なる転帰を辿った新生児 HSV-HLH の 2 症例について、サイトカインプロファイルと遺伝的背景を検討した。また新生児 HSV-HLH 感染症で報告されている 16 症例の臨床的特徴を評価し、予後因子について検討した。

結果

生存した 1 例は診断時に発熱と腫瘍壊死因子 (TNF) - α 、インターロイキン (IL) -6、インターフェロン (IFN) - β および IFN- γ の血清レベルが上昇していた。もう 1 例の新生児は IL-6 および IFN 産生を認めたが、発熱や TNF- α 産生を認めず、日齢 19 に死亡した。自験例を含む 16 例の新生児 HSV-HLH のうち、死亡した 8 例の新生児は生存例した 8 例と比較して、診断時の発熱が有意に少なく ($p = 0.028$)、血小板数の低下 ($p = 0.019$)、可溶性 IL-2 受容体 (sIL-2R) /フェリチン比が低かった ($p = 0.044$)。生後 100 日の全生存率は、発熱 ($p = 0.004$)、血小板数 $100 \times 10^9 /L$ 以上 ($p = 0.035$)、また sIL-2R/フェリチン比 20 以上 ($p = 0.004$) の患者で有意に高かった。

結論

今回の結果は、新生児 HSV-HLH の予後不良となる危険因子を示した。HSV 感染に対する発熱およびサイトカイン応答は、新生児 HSV-HLH の転帰を予測できる可能性がある。